

各 位

会 社 名 株式会社アズジェント
 代 表 者 名 代表取締役社長 杉本 隆洋
 (JASDAQ・コード 4288)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 常務取締役 鈴木 眞治
 電 話 03 - 5643 - 2581

特別損失の発生、平成 20 年 3 月期中間及び通期業績予想
 の修正に関するお知らせ (連結・単独)

平成 20 年 3 月中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)において、特別損失が発生することになりましたのでお知らせ致します。また、平成 20 年 3 月期中間及び通期の業績予想について、平成 19 年 5 月 11 日付当社「平成 19 年 3 月期決算短信」にて発表した業績予想を以下のとおり修正致します。

1. 特別損失の発生に関して

(1) 発生金額

関係会社投資損失引当金繰入 76 百万円

(2) 発生理由

当社は SIP(1)関連商品の開発を目的として、平成 17 年 2 月にシンガポールに現地子会社、ASGENT TECHNOLOGY PTE. LTD. を設立いたしました。当該 SIP 関連商品は既に商品化フェーズに入っており、今後は収益貢献が期待されますが、これまでは開発に係る先行費用により赤字が継続しております。その結果、当中間期末において 50%を超える資本欠損の状態となっておりますので、当社が保有する当該子会社の株式に相応の投資損失引当金を計上することと致しました。

尚、当該特別損失は連結上取り消しの扱いとなるため、個別財務諸表にのみ影響を与え、連結財務諸表に与える影響はありません。

1 SIP(Session Initiation Protocol の略)
 インターネットを介して通信を行うためのプロトコルの一種

2. 業績見通しの修正

(1) 平成 20 年 3 月期 中間業績予想の修正

a) 連結 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前予想 (A)	1,700	10	5	0
今回修正 (B)	1,655	1	3	11
増減額 (B - A)	45	9	2	11
増 減 率	2.6 %	90.0 %	40.0 %	- %
(ご参考) 前年同期実績 (平成 18 年 9 月中間期)	1,634	23	30	18

b) 単独（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想（A）	1,700	20	15	9
今回修正（B）	1,650	29	34	32
増減額（B - A）	50	9	19	41
増減率	2.9 %	45.0 %	126.7 %	- %
（ご参考）前年同期実績 （平成 18 年 9 月中間期）	1,631	13	6	86

(2) 平成 20 年 3 月期 通期業績予想の修正

a) 連結（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	3,600	80	70	30
今回修正（B）	3,510	50	40	30
増減額（B - A）	90	30	30	0
増減率	2.5 %	37.5 %	42.9 %	0 %
（ご参考）前年同期実績 （平成 19 年 3 月期）	3,390	156	187	420

b) 単独（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	3,600	110	100	60
今回修正（B）	3,500	110	100	20
増減額（B - A）	100	0	0	40
増減率	2.8 %	0 %	0 %	66.7 %
（ご参考）前年同期実績 （平成 19 年 3 月期）	3,385	61	91	470

(3) 修正理由

a) 中間期

売上高は、連結、単独ともに、概ね見通しとおりの結果となり、対前回予想値で若干のマイナスとなりました。営業利益および経常利益では、売上総利益率の改善等によって、単独では上方修正となりましたが、連結では SIP 関連商品の日本国内市場投入に向けたマイナーチェンジ等により、シンガポール子会社の事業立ち上げが遅れたことで下方修正となりました。また、当中間期においてシンガポール子会社投資に係る投資損失引当金計上により、単独での純利益が中間期では 32 百万円と赤字となりましたが、連結では当該引当金の影響はないことに加え、繰延税金資産の再評価により上方修正となりました。

b) 通期

下半期においても、前半（中間期）の状況に大きな変化はなく、売上総利益率の改善等による単独での収益改善分で海外子会社の損失を補う構図は続く見込みであることから、営業利益及び経常利益については、単独での修正はないものの、連結では下方修正となります。単独の当期純利益については、黒字に転換する見通しであることに変更はありませんが、当中間期に計上した投資損失引当金の全額を補うことはできない見通しです。

以上